

1月27日(水)

本日は、ECCE (Early Childhood Care and Education) について、各自が事前にオンデマンドで学習した日本の ECCE の状況について、研修員の各国の状況を踏まえて議論を行いました。

議論は研修員が事前に用意した論点をもとに行われました。

研修員のいる国では、ECCE の状況は各国様々であるが、おおよそ初等教育をはじめとして他の教育段階においても問題を持っており、十分に ECCE に対して投資ができない状況や ECCE と公立の初等教育との接続の問題が ECCE の問題として挙げられました。また、政府に対して「ECCE の投資の必要性を求める際に研修員はどのような意見を提示することができるのか」という論点では、今回オンデマンドで学習した内容をもとにエビデンスを提示していく必要性や長期的な視点での投資の必要性が挙げられました。

恵まれない家庭やその状況下にある子どもの環境の改善に対する政策案についての議論では、ECCE における教員育成やカリキュラムの改善、それらのための研究の向上だけではなく、子育てを実際に行う保護者の態度の改善の必要性や、家庭を取り巻く社会的環境(家庭環境)の改善、つまり包括的な家庭を支援するためのプログラム実施の重要性を認識しました。

新型コロナウイルスの影響下での各国における ECCE の状況として、ICT (Information and Communication Technology) を活用した教育実践をする必要があるが、ICT 環境が充実している家庭環境と充実していない家庭環境があるため、取り残されている子どももいるという各国の現状が報告されました。研修員からは、子どもが ICT 活用できる環境の保障や改善を行う必要性、ICT で行うことのできる ECCE の教材やカリキュラムを改善していくことの必要性が意見として挙げられました。教材だけではなく、「子どもの健康状態を確認することの困難さ」といったオンラインならではの問題点も取り上げられました。

広島大学附属幼稚園における「森の幼稚園」の新型コロナウイルスの影響下での実践については、学校に行かせたい両親の思いからくる不満も予測されることが意見として挙げられる一方、研修員の国の森では動物も多くいるため「森の幼稚園」の実践を参考に動物と子どもが触れ合えるいい機会が作れるのではないか、閉じこもりになるコロナ禍ではいい取り組みではないかという意見が挙げられました。

各国のオンラインの通信状況には差はあるものの、研修員の積極的な意見交換が見られました。